

高雄だより臨時号

学校評価（前期） 結果と分析

令和元年10月2日
京都市立高雄小学校
校長 坪内 昌子

昨年度の学校評価の項目を整理し、できるだけ、児童・保護者の実現度を比較し関連づけられるよう試みました。

【確かな学力について】

高雄小学校では、学力向上を図ることを目標にして、様々な取組を進めています。朝の学習や帯タイムでの基礎基本の定着を図る時間を確保し、繰り返し学習することで、習得率が高まる計算や漢字学習などを中心に実施しています。

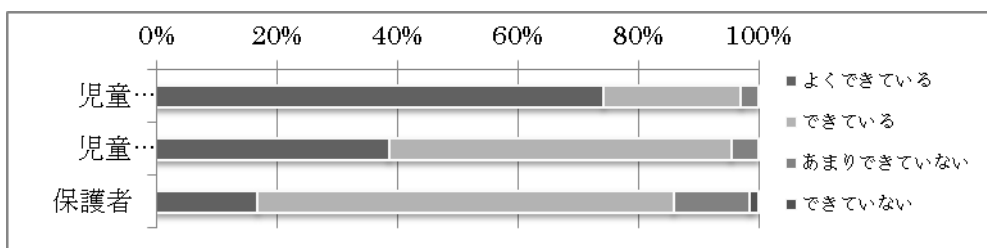
【質問①】は、学校での授業について ～わかる・できる授業～

低学年…わたしは、べんきょうしていることが わかっています。

高学年…わたしは、学校の授業がわかっています。

保護者…わが子は、学校での学習内容がわかっている。

低学年で約97%、
高学年で約95%の
子どもが、授業がわ
かっていると答えて
います。一方で高学
年になるほど学習内
容がだんだん難しく



なってきた、わからないと感じる子どももみられます。（低学年3%、高学年4.5%）わからない問題に出会ったとき、すぐに「わからない」とあきらめてしまうのではなく、自分なりに粘り強く考え、解決できる力を身につけてほしいと思います。そのためにも、学校全体で授業改善の視点から校内研修・研究協議を充実させ、子どもが主体的に学ぶ授業を進めていくことで、「勉強が楽しい」「最後まであきらめなかったらわかった」と実感できる授業を目指していきたいと考えています。

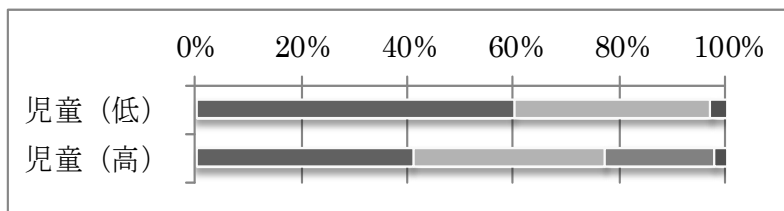
また、授業の学習内容と家庭学習とを連動させて、より確かな学力の定着を図る取組も大切になってきます。毎日の家庭学習により、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図ることをめざし、今後も子どもたちに、声をかけていきたいと思っています。

【質問③】は自分の考えを話すことについて ～合意形成と意思決定～

低学年…わたしは、せんせいやともだちに、じぶんのかんがえを はなしています。

高学年…わたしは、先生や友だちに、自分の考えを伝えています。

本校は特別活動（学級会の話し合い活動）の研究に力を入れています。テーマは「主体的・協働的な学びの構築・学びに向かう学習集団の形成」です。その中で、特に大切にしている力は、合意形成力と意思決定力の育成です。



学級活動の話し合い活動において、学級や学校におけるより良い生活づくりへの積極的な参画をめざし、子どもたちが自ら問題を発見し、その解決方法について話し合い、折り合いをつけて、集団として合意形成を図ることをねらいとしています。

そのようなねらいのもとに、特別活動の時間を中心に学習を進めてきて、「できている」以上の回答をした児童は低学年で約97%、高学年で約77%（H30 後期データ 低学年約84%、高学年約74%）という結果となっています。

今後も主体的・対話的に問題解決を図る学習を進めていく中で、確かな学力の定着を図っていきます。

【豊かな心について】

【質問③】学校で仲良く過ごしているかについて ～自尊感情を育む～

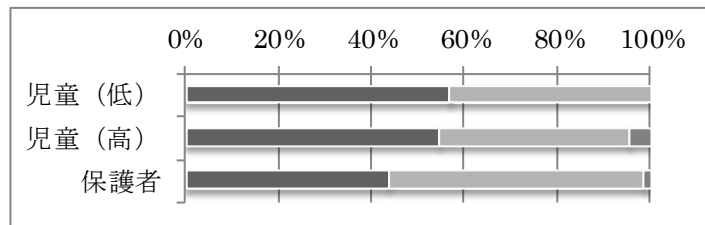
低学年…わたしは、だれとでも なかよく すごして います。

高学年…わたしは、だれとでも、仲良くすごしています。

保護者…わが子は、学級の友達と仲良く過ごしている。

「学校で仲良く過ごしているか」については、低学年はほぼ100%、高学年では約95%以上ができていると回答する一方で、そう思わないと感じている子どもも高学年で見られます。また、「わが子は、楽しく学校に通っている」と回答している家庭が約98%でした。

学校でも、学習や学級活動、たてわり活動などを通して、一人一人が周りから認められ、自分は大切にされていると感じるだけでなく、自分自身が大切な存在であるという自己有用感を抱けるよう育んでいます。「自分を大切にできない人は、周りの人を大切にすることが難しい」と言われますが、まずは、自分自身を大切にすること。そして、そのあとに自分の周りにいる人たちとどのように仲良く過ごしていくかをこれからも学んでいってほしいと願っています。また、高学年では約5%の子どもたち、保護者の約1%の方が、仲良くすごせていないと感じています。すべての子どもが相手のよさを見付けようと努め、互いに協力し合い、時には互いに指摘し合うなど、仲間を大切にする取組を進めています。



その中で、自尊感情を高め、自分の力を学級全体の為に役立てようとする風土を作り上げる学級経営を、特別活動を中心に今後も進めていきたいと考えています。

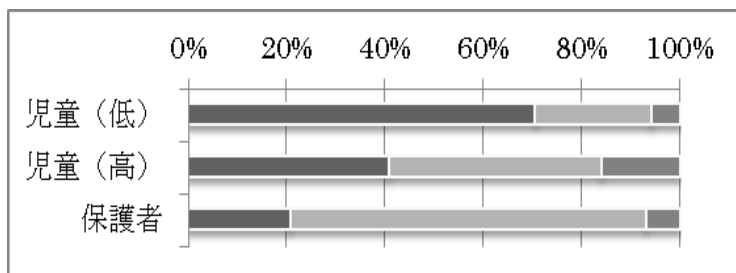
【質問③】思いやりの心などについて ～共に生きるということ～

低学年…わたしは、ともだちが こまっていたら やさしく こえをかけています。

高学年…わたしは、友だちが困っていたら、やさしく声をかけています。

保護者…学校は、思いやりの心・考える力・たくましい子を育てている。

思いやりの心については、高学年で「できていない」と感じている子どもが約16%近くいるという結果になりました。あいさつや言葉づかいの項目でも同じような結果でした。クラス替えのない中、多くを言わなくても、また丁寧に言わなくても伝わるという気持ちから、短い言葉でポンポンと話してしまうこともあるためと考えられます。少ない人数であるからこそ、あたたかい言葉かけができる関係を築けたらと思います。



全ての教育活動の中で、共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかり身に付けていく教育の実践を進めています。取分け、毎月実施している「ともだちの日」の取組では、すべての子どもが様々な特性についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う教育を推進しています。

そんな中、少しずつ「そのくらい大丈夫かな?」「いつものことやし・・・。」と周りの人が困っていても、見て見ぬふりをしてしまうのではなく、高学年だからこそ、相手意識を高めて生活していくことで、これまでよりもお互いに気持ちよく学校生活を送ることができるものと考えます。

また、できていないと回答されている保護者の方が約7%ありました。これは、学校の取組が不十分だと感じておられることの表れだと思います。「一人一人を徹底的に大切にする。」という教育の根本をもう一度教職員一同再確認し、日々の取組に生かしていきたいと思っています。

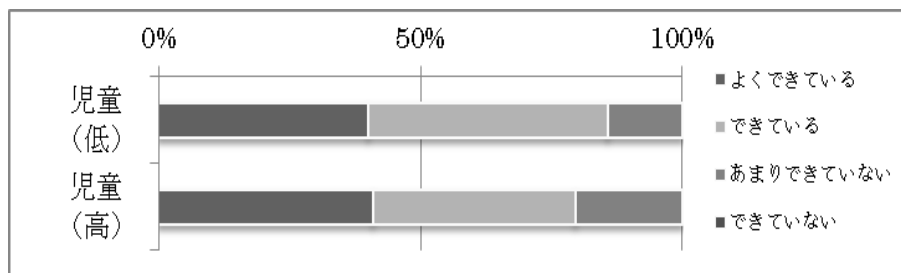
【健やかな体について】

【質問①】 基本的生活習慣にかかわることについて ～睡眠時間減少の低年齢化～

低学年…わたしは、はやね・はやおきをして、あさごはんを たべています。

高学年…わたしは、早ね早起きをして、朝ごはんを食べています。

「早寝・早起き・朝ご飯」の項目については、低学年が約85%、高学年が約78%の子どもができていて一方で、例年よりも「あまりできていない」と回答する高学年の児童の割合が増加しています。



つい夜遅くまでテレビをみたりスマートフォンをさわったりしている子や習い事でどうしても就寝時刻が遅くなってしまったりしている子がいるようです。そのために、翌朝起きる時刻が遅くなり、朝ごはんを食べる時間を削らなくてはならなくなっている子も増えてきているのかもしれませんが。また、各家庭によって、習いごとやお仕事の都合で夕食が遅くなるなど、生活の仕方が多様化しているのも原因の一つではないかと思います。睡眠時間は、心身ともに健やかに成長するために欠かせないものです。また翌日の学校生活に大きく影響してきます。小学生では、9時間～11時間の睡眠が必要とされています。高学年になるにつれて、つい就寝時刻までは管理しなくなりがちですが、可能な限りきちんと家庭で話し合っ、就寝時刻になったら布団に入るようにし、十分な睡眠をとって翌日を元気に過ごせるように、今一度生活リズムを見直していきたいものです。

他に「安全面」に関する質問事項について、ほとんどの子どもたちは、「安全に気を付けて行動することを意識している」と回答していました。保護者の皆様からは、「学校が適切な安全対策をとっているか」という項目について、約7%の方が「できていない」とされています。お子たちの「命を守りきる」という点から学校ではより一層の努力をしていきたいと思っております。設備面だけではなく、小さな学校なればこそその利点を生かし、よい人間関係の中、互いに無関心ではなく、声を掛け合い、危険回避できるような学校を目指したいと思っております。

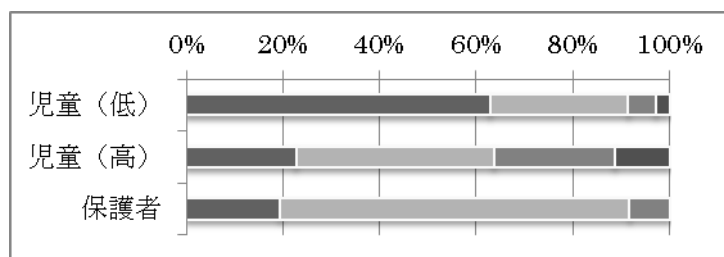
【学校と家庭・地域との連携について】

【質問②】 地域との連携について ～持続可能な開発のための教育～

低学年…わたしは、ちいきの ぎょうじにさんかしています。

高学年…わたしは、地域の行事に参加しています。

保護者…学校行事や参観日、地域行事には、参加している。



地域との連携については、低学年で約90%の子どもたちが「参加している。」と答えています。高学年で参加していると答えた割合が約62%となりました。

本校の取組の一つとして、地域の行事に積極的に参加し、地域とのつながりをより深めるだけでなく、ESD（持続可能な開発のための教育）に関する研究を生活科や総合的な学習の時間の中で進めています。その中で、地域の方々の想いや自然や文化についてより深く知り、そこに住む地域の方々の生き方について共感し、地域を愛し、誇りに思う子どもたちを育てていきたいと思い、研究を継続しています。ESDの取組をさらに充実させ、子どもたちの自発的な学びから、より地域に根差した学習を進めていけるようにしていきたいと考えています。